

第14回・夏休み子ども大会

2012年
(平成24年)
9月1日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区五位組

題字・織田隆夫



主催 五位組18ヶ寺・門徒総代会
2012年8月1日 廣濟寺 (笹川)

「大震災や原発事故に向き合うとは」

山岸智史

一昨年から発行しました五位組組報『五位組だより』も今回で第五号を発行することになりました。この『五位組だより』は門徒推進員が中心となって発行しています。「五位組門徒推進員が活動できる場を作りたい」という思いから始めた事業ですが、色々な反響もあり、ありがたく思うことです。今回は「大震災や原発事故に向き合うとは」ということで、私の思うことを書いてみたいと思います。

昨年、震災や原発事故が起こった直後である三月十四日、石原慎太郎東京都知事は震災や津波に関して「日本人のアイデンティティは我欲。この津波をうまく利用して我欲を一回洗い落とす必要がある。積年たまった日本人の心のあかをね。やつぱり天罰だと思う。」と発言しました。この「震災津波は天罰」という発言に対して多くの人から「では被災地の人々は何か悪いことをして罰を受けたのか」という反発があり、石原氏は発言を撤回しました。

この石原氏の発言を整理しますと、震災は「天罰」として、それを「利用して」私たちは「我欲を洗い落とす」。そして、その先には心豊かな生活や人生をおくりましょう、という方向性が見えてくると思います。しかし、この石原氏の発言は、私たち仏教徒にとって他人事ではありません。私たちにも同様の問題が見え隠れするのです。というのは、この「天罰」を「尊いご縁」とすると、私たちの問題が見えてきます。震災等の悲しい出来事を「尊いご縁」として、仏法に出会う、そして、「我欲を洗い落とす」心豊かな念仏

申す日暮しをおくる。そうです、お通夜の法話で同じような話を私たちはしてきました。「この死を尊いご縁としてお念仏に出会い、念仏申す日暮しをさせていただきましょう」と。実際に仏教界の一部からこの石原氏に同調する意見もありましたし、私にも「これをご縁に仏法を学び伝える、震災から仏法を学ぶ」とか「この事故や震災を機縁に我欲に歯止めをかける」という思いがあったりします。

この「天罰」と「尊いご縁」は違うと思われるかもしれませんが、抱えている問題は一緒です。それは、震災や死を「利用」して、私が「仏法を学び、心豊かな念仏申す日常生活を送る」という構図です。このことは、言い換えると震災の苦しみや死の悲しみを踏み台にして「仏法を学び、心豊かな日常生活(念仏申す日暮し)」をおくろうという事です。これでは、被災者や遺族の方々はたまったものではありません。苦しみ悲しみに寄り添うどころの話ではありません。

震災や原発事故は苦しみ悲しみの現実であり、そこに「天罰」とか「尊いご縁」という意味づけをして利用することは間違いだと思えます。大切なのは、その悲しみ苦しみの現実に向き合い、自分や社会を問い、そしてどのような方向性を示していくか、ということでしょう。そして、自分や社会を問う批判原理として、方向性を示していく原動力として仏法があるのです。

五位組では現実を目をそらすことなく支援活動を続けて行きたいと思えます。また、それを通して、その現場の事実を知り、原発をはじめとした社会問題についても方向性を示していきたいと思えます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

第14回夏休み子ども大会の開催

福澤庸二

八月一日午前九時半より、笹川の廣済寺さんにて第十四回五位組夏休み子ども大会が開催されました。まず最初に開会式での組長、門徒総代会会長の挨拶。仏事作法を練習してからのお参り。みんな真剣にお参りしていました。ゲームが始まると先程までおとなしかった子供たちも、じゃんけんゲームと風船ゲームで大はしゃぎでした。その後組長による紙芝居、休憩ジュースタイムを挟み、毎年恒例になっているBMX(自転車)ショー。

紙芝居



今回もプロBMXライダーのみなさんを迎え素晴らしいショーを見せてもらいました。平らな路面での曲芸乗りやジャンプ台での高いジャンプ。空中の横一回転や後方一回転など子供たちは大興奮でした。最後はジャンプ台での自動車飛びには子供だけでなく大人も興奮でした。本堂にもどり永賢寺住職のフルートによる讃歌指導。みんなで歌を歌いました。閉会式の後はお菓子のお土産をもらい外で水風船のヨーヨー釣りをして帰って行きました。この子ども大会で子供達が、お寺で楽しみ、お寺を身近に感じてもらえたら嬉しく思います。

BMXショー



自坊紹介

福田山 本正寺 高岡市本保



本正寺は高岡市本保にあります。エッ本保なんて何処だ?とお思いの方も居られるかも知れませんが本保と云う処は依前は小勢校下(今は立野小学校と合併して千鳥ヶ丘校下)で、小勢という地名は高岡市農協小勢支店、小勢保育園等と今でも残って居ります。

五位組の中では一番南東に位置し、南は戸出町、北は福田地区につながる南北に細長い水田地帯の在所です。小勢保育園の近くには測量の為の三角点が設けられて居ます。北西の方角にはJRの北陸新幹線の高架橋が帯を延ばした様に福岡町の方へ伸びて西の山を眺める景観が大分変りました。村の西側を流れる祖父川には近年蚩が大分復活し初夏の風物詩となって居り見物の人も増えてきたようです。

当寺も山号は前回の廣済寺さんと同じ福田山ですが由緒は不明です。ただ本保地区には明治になるまでは福田組(クミとは現在のムラ)に属していた故かと推測して居りますが詳細を御存知の方はお教えください。本正寺の開創は元文三年(今から約二百六十年前)に市内早川村の法泉寺の儀教が建立したと伝えられて居ます。二百六十年前と云えば永いようですが他の寺方と比較べますと極めて歴史が浅く(他の寺々は五・六百年以上の歴史があります)寺のなかでは新参者と云う訳ですが何分共よろしくお願い申し上げます。

報 恩 講 ご 案 内

各寺院の報恩講の
日程をお知らせします。

石堤 法善寺

九月二十九日 朝 九時三十分 昼 二時
九月三十日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 福岡町舞谷 麻生 達兼 師
※三十日は祠堂経法要

赤丸 性宗寺

十月十一日 昼 二時 夜 七時
十月十二日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 射水市市井 公文名 眞 師

四日市 浄明寺

十月十四日 昼 二時 夜 七時
十月十五日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 射水市市井 公文名 眞 師

辻 西福寺

十月十六日 昼 二時
十月十七日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

立野 永念寺

十月二十日 昼 二時
十月二十一日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 小矢部市興法寺 立川 証 師

日程順に記載してあります。どうぞお誘い合わせの上、お参りください。

三日市 光源寺

十月二十二日 昼 二時 夜 七時
十月二十三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

本保 本正寺

十月二十六日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

佐加野 光明寺

十月二十七日 昼 二時 夜 七時
十月二十八日 朝 九時三十分
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

内島 教願寺

十月三十日 昼 二時 夜 七時
十月三十一日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

石堤 長光寺

十一月一日 昼 二時
十一月二日 朝 九時三十分 昼 二時
十一月三日 夜 七時
法話 氷見市布施 朝 九時三十分 昼 二時
圓山 清 師

中保 善教寺

十一月三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市中田 清水 朗 師

笹川 廣濟寺

十一月五日 朝 九時三十分 昼 二時
夜 七時
十一月六日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

麻生谷 西光寺

十一月七日 朝 九時三十分 昼 二時
夜 七時
十一月八日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市脇 寺西 良夫 師

上向田 浄永寺

十一月十一日 昼 二時
十一月十二日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市脇 寺西 良夫 師
南砺市城端 杉谷 淳志 師(十二日昼)

山岸 珉照寺

十一月十六日 昼 二時 夜 七時
十一月十七日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

舞谷 永賢寺

十一月二十三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 小矢部市興法寺 立川 証 師

お斎等の詳細については、
各寺院にお問い合わせください。

「東日本大震災救援活動報告」

高岡教区災害対策専門委員会
委員長 織田隆夫

八月九日〜十二日までの四日間、福島県飯館村より福島市内に避難している子供達とそのご家族十九名(八家族)を高岡にご招待してホームステイを実施いたしました。飯館村は現在も放射線量が非常に高く数年から数十年帰宅困難と言われております。避難地である福島市も線量が高く低線量被曝が懸念されています。

子供達は学校でも避難所でも外で遊ぶことを控え、室内での生活を強いられる中、少しでもものびのびと外で遊ばせてやりたいとのご家族の依頼を受け実施いたしました。到着日はホストファミリーとの懇親会の後、各寺院に向かいました。二日目は氷見市の虹が島へ船で渡り散策し、午後からは女良海岸にて海水浴を楽しみました。水着になった子供達の肌の白さが福島での現実を見るようで胸が熱くなりました。大人も子供も大はしゃぎで海から上がろうとせずあつという間の時間でした。三日目は各ホストファミリーと一日を過ごし、十二日十一時には富山を後にしました。最後のお別れ会では、日焼けした子供達の顔が印象的で、中々ホストファミリーの家族と別れることができず泣きながら別れを惜しみました。

低線量被曝から子供達を守るには年に一回三〇日〜六〇日放射線に触れない場所で生活することが唯一の治療法との報告もあります。放射能の影響はどのような形で私たちが蝕んでいくのかはわかりませんが、未来の光である子供達を少しでも守っていきける方法があるのならこの活動を永く継続していきたいと考えております。

「今年も相馬に富山米を送ろう！」

高岡教区では、昨年十一月に福島県浄土真宗本願寺派相馬組(十ヶ寺)に新米の支援を行いました。昨年、高岡教区内の方々にお米のご依頼をした所、六・七トンものコシヒカリ玄米をいただき、相馬組各寺院を通し五キロずつ門信徒に配布され大変好評のうちには終わりました。本年も九月中旬より募集案内をいたします。十一月十二日から十五日までに高岡教務所にお届けください。十一月下旬には相馬にお届けしたいと思しますので、ご協力よろしくお願いいたします。

第十期連続研修会

(開催中)

平成二十四年(二〇一二年)四月〜
平成二十五年(二〇一三年)七月
毎月第二日曜日
十九時〜二十一時半
各回に事前学習会を開催

お詫びと訂正

前号において浄永寺住職・齋藤芳撰氏の短歌を掲載いたしました。前号に脱字がありましたので、お詫び訂正させていただきます。正しくは「大津波これほど蹂躪されたるも海に怨みをもつ人はなし」でした。齋藤住職はじめ、関係者の皆様に多大のご迷惑をかけたこととお詫びして訂正させていただきます。

◆◆ 五位組行事予定 ◆◆

門徒推進員研修会

平成二十四年(二〇一二年)
十月六日(土) 十四時から
場所 珉照寺

門徒総代会研修会

平成二十五年(二〇一三年)
二月十五日(金) 十三時半から
二月十六日(土) 九時まで
場所 山ぼうし

実践運動研修会

平成二十五年(二〇一三年)
三月一日(金) 十五時から
場所 長光寺

歴史講座

平成二十五年(二〇一三年)
三月十七日(日) 十九時から
場所 長光寺

編集後記

第五号の編集はいろいろの意見を取り入れたるの意図と成りました、また皆さんの意見をお聞かせください。

ひき続き重点活動の東日本大震災への支援活動では、五位組の支援活動の熱意が伝わり高岡教区の支援活動へと輪が広がってまいりました。組長さんをはじめ皆様方の努力の賜物と思えます。

自坊紹介も二回目になります。今回は本保の本正寺さんです。恒例の夏休み子ども大会は廣濟寺さんでにぎやかに行われました。

組あげての第十期連研が順調にスタートしております。

又、各寺院での報恩講の開催時期になりました。誘い合わせてお聴聞しましょう。

合掌